

# 平成30年第11回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 平成30年11月28日(水) 午後3時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 議員執務室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員(教育長職務代理者)、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、古山陽子委員、齋一志教育長
- 4 説明のため出席した者  
教育総務課長 尾形 彰、生涯学習課長 八島 良隆、学校教育専門監 池田 尚人
- 5 開 会 午後3時00分
- 6 平成30年第10回教育委員会定例会会議録の承認について  
舟山委員 (委員全員に諮って)承認する。  
舟山委員、丹羽委員 署名。
- 7 平成30年第11回教育委員会定例会会議録署名の委員指名について  
舟山委員 | 古山委員、齋教育長を指名する。
- 8 教育長報告  
(1) 一般事務報告  
報告第26号 障害児の就学措置に係る答申について  
(説明者:教育総務課長)  
障害児の就学措置に係る答申についてご説明申し上げます。資料は別紙のとおりである。  
来年度の就学について、就学指導審議会において特別支援学級及び特別支援学校就学の審議をした結果である。  
(説明者:教育長)  
平成24年7月の学校教育法施行令の改正により、障害の状態、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、専門家からの意見、学校地域の状況等の総合的観点から、教育委員会が就学先を決定する仕組みとなったため報告するものである。なお今回法改正があり、教育委員会の判断が重要視されることになった。国の規準における特別支援学級はクラス定員が8名であるが、近年、情緒障害の子どもが増えており、1対1で人が付かないとその対応が難しい状況が多くなっている。国の基準の変更をしてほしいという要望を、文部科学省に再三しているが、中々実現に結びつかない。

(質 疑)

舟山委員  
教育長

年々情緒の障害が増えているようだが、学校の現状は大丈夫か。  
年度ごとに特別支援学級の人数を見ながら町で教員補助者を配置している。なお、情緒障害の児童が多い学校に対し、県より支援員がやっと配置された。ぜひ、教育委員の皆様にも、学校においての際は、特別支援学級の状況を見ていただければと思っている。

専門監

就学児検診での知能テスト結果等を勘案し、保護者へ審議決定通知を送付しているが、同意を頂けないケースがある。普通学級での学級運営が難しくなっている状況もある。

舟山委員 (委員全員に諮って) 承認する。

## (2) 専決事務報告

報告第5号 専決処分の報告について

(平成30年度大河原町一般会計補正予算(第4号))

(説明者: 教育総務課長)

資料は別紙のとおりである。

小中学校へのエアコンを設置するための設計業務委託料を要求し、お認めいただいた。今後は、建設に向けての予算を要求し、設置に向けて動いていく状況である。万が一年度内に間に合わない場合は、次年度に繰り越す可能性もある。

(質 疑)

丹羽委員  
教育総務課長  
一盃森委員  
教育総務課長

設計委託料の算定はどのようにするのか。  
基準が定められており、それに沿って費用を算定している。  
仙台市では、今年度末に完了と言っているがどうか。  
年度内に全て終わらせるべきものとはなっているが、資材の高騰、業者の確保ができるか等が懸念される。単年度で終わるかどうか。平成31年度内に終了する可能性もあるのではないかと考えている。

生涯学習課長

公民館のエアコン工事を見ていると、ホールの利用が少し入っているだけでも工事はできないそうである。

舟山委員  
一盃森委員

学校の長期休暇を利用しないと工事が難しいのではないかと。  
進捗状況により、来年夏の利用が難しくなった場合は早めにお知らせすべきだと思う。

舟山委員 (委員全員に諮って) 承認する。

## 9 その他

### (1) 教育長報告

(説明者：齋教育長)

資料は別紙資料である。

- I 祝 宮城県学校保健・安全研究大会 平成30年11月14日(水) えずこホール  
午前 協働で進める学校歯科保健活動 午後 防災教育の恒常化推進  
講演 脳科学者 澤口 利之先生「子どもの脳をどう育てるか」
- II 「川をきれいにする児童図画・ポスター」国土交通省 阿武隈川  
特選 金小3年、佳作 金小6年
- III 20代教員の交通事故 防止を
- IV 入学生 学校見学会(大河原中学校) 平成30年11月29日(木)～30日
- V 第1回金ヶ瀬中学区・第3回大河原中学区 登校時 合同避難訓練  
平成30年11月16日(金) 午前8時 見守りジャンパー活用  
子供たちと地域の方との距離が年々近くなっていると感じている。
- VI 教育月間 平成30年11月 役場ロビーへ当町の取組を掲示 教育に対する理解を図る
- VII 統合型校務支援システム導入 働き方改革の最前線  
出席簿・通信票・指導要録 のシステム化を目指す
- VIII なぜ音読 なぜ暗唱 もっと暗唱 もっと暗唱

川島隆太 東北大学教授「発声は、思考を司る前頭前野を中心に脳を活性化するエンジン」

音読の効果

- 1 覚えたことを定着させる
- 2 老化、物忘れを防止する
- 3 若返り、幸せホルモンのセルトニンを分泌させる

声の振動・・・脳を刺激「声の振動は脳を目覚めさせる働きがあります」

500回音読、暗唱=20年、30年を過ぎても忘れない「完全記憶」に発展

倍速 三倍速 高速音読で記憶の質を変容させ 脳の深層意識に蓄積

<速音読> 「齋藤孝の速読塾」(ちくま文庫)

①目 ②口 ③耳 ④頭

音読は①②③④を同時進行、黙読は①④だけ

(質疑)

教育長

学校の先生方は、様々な新しい仕事が増えており、本当に多忙な中、笑顔で勤務いただいている。また、先日のクロスカントリー大会にも笑顔でご参加いただき、盛り上げていただいていることに深く感謝している。

その一方で、中学生の自己有用感が例年低くなっている。

専門監

全国学力学習状況調査においてのアンケート結果を、県平均と照らし合わせてみたところ、「先生の声掛け」「先生は良いところを認めてくれているか」の設問に対し、小学5年生は県平均より高いが、中学生は県平均に達していない。

しかしながら、授業の「めあて」「ふりかえり」については、小中学生共高い回答である。

教育長	中学生も、先生に声をかけてほしい、目をかけてほしいという欲求が高いことが見て取れる。今後のポイントとして学校へ提示していく。
丹羽委員 専門監	ただし、学校での差、学年での差も見受けられる。中々かみ合っていないということが調査結果から見て取れる。今後の課題克服へ生かして行きたい。 統合型校務支援システムについて詳しく教えてほしい。 通信票や出席簿について、今も先生方はパソコンを使って、Word や Exel を利用して作成しているが、このシステムを導入することで、そのシステムに入力しておけば、通信票等に反映していくということになる。児童生徒の情報も、今は自分でクラス用の名簿等を作成しているが、データベースされることで作成する手間が省ける。中学校への進学時の情報出力も可能になる。指導要録から、進路関係資料にデータ出力もできるようになる。
舟山委員 専門監	転校するときはどうなのか。 転校先でそのシステムを使ってなければデータの引渡ができない。できれば少しでも多くの市町村で導入をしてもらおうと良いと思う。
丹羽委員	教育月間の掲示、非常に素晴らしかった。 また、音読暗唱の件だが、私の周りの話をすると、僧侶はほとんど認知症がない。きっとお経を読んでいるからではないか。非常に納得のいく話である。
舟山委員 教育総務課長 一盃森委員	見守り隊のジャンパー活用の件だが、教育委員会にも用意したのか。 10 着ほど用意し、今後学校との見回り等で着用を考えている。 合同避難訓練に対し、地域の方々へもっと協力を声掛けてはどうかと思う。いつもと違う道を通っていくことになるので、多くの協力が必要ではないか。 年々良くなっている。大中でも地区生徒会を開催したと聞いている。今までなかったと思う。非常に良いことだと思う。
舟山委員 一盃森委員	継続することで更に良くなっていくと思う。 保護者はもう出勤していない時間帯であるため、祖父母の世代にもっと協力を呼び掛けたらよいのではないか。
専門監	お知らせ版では広報しているが、区長さんから要望があり、回覧板でもお知らせする方向で考えている。

## (2) 各課長報告

(説明者：学校教育専門監、生涯学習課長)

12月の行事予定を説明申し上げる。別紙資料である。

### 10 次回教育委員会の開催日程について

舟山委員 | 次回の定例会は、平成30年12月21日(金)午後2時から開会する。

11 閉会宣言 午後4時42分

平成30年12月21日

署名委員

署名委員